



理念

- 1、乳幼児期の子どもの最善の利益を守る保育園
- 2、親・地域の多様な子育ての要求を受け止め、
助ける保育園
- 3、すべての子どもたちが健やかに育ち、すべての
ものの生命を大切にし、平和な社会をめざす保育園

めざす子ども像

- 1、心身ともに健康な子ども
- 2、自分の要求を持ち、豊かに表現し
実現しようとする子ども
- 3、自分を大切にし、仲間を大切にする子ども

保育目標

- 1、子どもの人格を尊重し、子どもの全面発達を保障する
- 2、保護者と子育てを共同する
- 3、保育園の社会的役割を果たす

あかちゃんに安心と喜びを

あたえるわらべうた

わらべうたは、母と子をより深く結ぶ、遠い昔から伝わる「子育てのわざ」といえるものです。わらべうたをお母さんが知ること、子育てがぐんと楽しく、楽になります。

お母さんの心臓の鼓動に合わせて、ゆつくりゆつたりとうたってあげるわらべうたは、あかちゃんを落ち着かせ、笑顔を引き出してくれるでしょう。

母と子を共に癒してくれるわらべうたは、私達と同じように子育てをしてきた母や、祖母たちによつてつくり、代々伝えられてきました。それ故に、あかちゃんをあやすためのわらべうたには、わが子や孫へのあふれる愛がうたわれています。

「あかちゃんのごきげんがよくなる」¹²の
わらべうたえほん」より



保育園で大切にしていることの一つにわらべうたを掲げています。母と子の絆を深めていくように、わらべうたを歌い関わることで、保育園でも保育士とこどもの関係が築かれていくことを感じています。2011年の4月に開園した時には、新人保育士が多かったため、専門の指導者に月2回きていただき、わらべうたの曲をたくさん覚える機会を持ちました。講師の先生には引き続き、現在も各クラスに入って指導してもらっています。私自身、子ども達との関係では、1歳児クラスに入った時、目が合うと固まって身動きしなかった子が、他の子とわらべうたをしている様子を見て、遠くから笑顔になったり近くに来て「自分も」と参加する姿に変わることがあります。こんなふうにはわらべうたを介して、子どもとの距離が近くなることを実感しています。乳児の時は1対1から始まり、幼児になると集団での遊びになっていきます。職員も回を重ね、研修会にも参加、今ではパート職員へ伝えていきます。機械での音が多い現在だからこそ、身近にいる大人が生の声でわらべうたをたくさんうたってあげることで、スキンシップをとり、その子との関係を築き聞く力をつけていくことにもつながっていくと思います。

10月の予定

10月 13日(木) 健康診断 遊ぼう会予行
15日(土) 親子であそぼう会
20日(木) 身体測定
25日(火) 体験保育
27日(木) 健康診断



お知らせ

- *園外保育の際(交通機関を使った場合)、緊急対応が必要になった場合に使用するため、保護者に「当日に必ず連絡のつく連絡先」を記入していただくことにします。ご協力をよろしくお願いいたします。
- *アレルギーの献立(除去食あり)を渡す際に、保護者の方に確認のサインをいただくことになりました。よろしくお願いいたします。
- *9月の引き取り訓練時に一斉メールを送信しました。返信をしていただきありがとうございました。今後も、アドレスが変更になった場合はすぐにお知らせいただくと助かります。

9月23日に、非常時のトイレの使い方を幼児でお話しました。

「もし、大きな地震が来て、お水が出なくなったらどうする？」と質問するといろいろ出てきましたがトイレの水が流れないというのは、なかなか出てきませんでした。当たり前すぎて考えつかないのでしょうね。(大人も) そこで、お水が出なくなった時は、トイレはどうするかを実物を見せました。



うんちとおしっこは別にする。これはうんち用



いっしょにしておくとうんち用とゴミ袋が爆発するよ



ペットボトルを切って、ここにおしっこをしたら、フタのついているボトルにためる。



100均で売っているお米を保存するためのグッズですが、ジョウゴがわりになります。ちなみに、避難所に行く時には、ペットボトルにお米を入れていくと現金代わりになるそうです。



健診などでコップにおしっこをした経験のある子は一人だけでしたので、おうちで練習をしてほしいとお話をしました。避難訓練と同じで、一度も経験したことのないことを非常時にすることは大変なことです。一度でも経験しておけば、いざという時にあわてないでできると思います。ぜひ、家族でいざという時のトイレの準備と練習をお願いします。

(排泄は、食べる回数より、多いのですから)

絵本コーナー
付近に展示
してます

9月7日、今年も減災アドバイザーの菊池さんに講演と防災用品の展示をお願いしました

講演内容

- ・地震などの災害に対して、漠然とした恐怖心を抱いているが、的確な情報と知識を得て、日ごろの備えや行動を考え、被害を最小限に抑えるよう努める。
- ・多くの人は「自分は死なない」、「誰かが助けに来てくれる」、「なんとかなる」と考えているが、実際はあまくない。役人も被災者であるため、行政はあてにできない。
- ・本物の被災地である場所は報道されない。報道されているところは道路が通って、マスコミの出入りが可能な場所。本当の被災地は電気もなければ水もない。表に出ている情報に惑わされてはならない。
- ・物資も大切だが、一番肝心なのは死なないこと。家具を固定する、ガラスには飛散防止フィルムを貼る、揺れたらキッチンには行かない、キッチンから離れるなどの基本的なことをする。
- ・どの事業所も備蓄品の3日分は置くことを義務付けられている。すなわち、3日間は動いてはならないこと。動いたら命の保証はない。家族にすぐ帰れコールはしてはいけない。特に群衆雪崩の起きる可能性がある。すぐに動くのは非常に危険を伴う。
- ・避難所に期待してはならない。本当に動けない人や障がいのある人を対象としている。元気な人間は行くべきではない。特に女性や子どもは事故に巻き込まれる危険性がある。皆、通常の状態を保てないこともある。避難所に行く前に、本当にそこへ行くべきかは、よく考えたほうがよい。
- ・被災地からの脱出までの一週間をなんとか凌ぐこと。そうすれば脱出は可能。その後は親戚や知人友人を訪ねて寝食を確保できる。ただ、震災発生直後は「遠くの親戚より近くの他人」。自宅の半径50m以内に挨拶のできる間柄の人を3人は見つけておく。いざとなったら助け合える。
- ・食料も大事だが、なんといってもトイレ対策を。尿はペットボトルに、便は別に簡易トイレを使用。決して両者を一緒に合わせてはならない。メタンガスが発生し、大変なことになる。また、明かりも忘れずに。暗くてはなにも動けない。



参加者の感想

- ・まずは子どもの安全が第一優先であるので、頭上の安全対策をして、環境を見直していきたい。(他園職員)
- ・まだ何も用意していなかったが、何とかなるという甘い考えが全く通用しないことを知りました。まずは部屋を片付けて、物資の準備や住環境の整理等、必要な行動をします。(本園職員)
- ・地方の被災と東京のそれとは被害の大きさが比較にならないほど甚大であるとわかり、非常に焦りました。通電までの期間や給水車の台数の少なさ、避難所の環境がいかに危険であるかなど、想定以上にシビアなので、早速家族で対策と備えについて話し合いました。赤ちゃんもいるので、早く準備を整えたいです。(5歳児保護者)
- ・災害についてはテレビや新聞で学んでいましたが、話を聞いてすぐに対策を実行せねばと思いました。帰宅後はすぐに寝床周辺を片付けました。揺れている途中で物が倒れたり、飛んでくること、ガラスが割れると手を切りやすく、ケガをしやすいくことを教わりました。また、割れたガラスを入れるのに必要なガラ袋や防刃用手袋の用意は今回初めて知ったことでした。30分くらいしか出席できなかったのが残念でした。(5歳児保護者)

保護者の皆さん、菊池さん、どうもありがとうございました。